

令和8年度 学校経営構想

国 「生きる力を育む教育」  
 令和の日本型学校教育 個別最適な学び・協働的な学び  
 静岡県教育大綱  
 未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む  
 ○未来を創造する力を育む教育  
 ○すべての人の学びを支え力を引き出す教育  
 ○地域ぐるみで取り組む教育  
 ○学びを支える基盤づくり

菊川市の教育  
 「豊かな学びで歩み続ける人づくり」  
 ～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～  
 ○「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育  
 ・「学びの庭」構想の推進  
 ・ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり  
 ・思いやりに満ちた学校づくり  
 ・「一人ひとりが生きる教育」の推進 等

1 実態

児童

○明るく、素直で人なっこさがある。  
 ○決められたこと、与えられたことを守って学校生活をよくしようとする。  
 △自分ごとととらえて行動する意識が弱い。（主体性）  
 △場に応じた発言や判断力が弱い。（コミュニケーション力）  
 △心・精神的に不安定で個別支援を要する児童が増加している。

保護者・地域

[保護者]  
 ○学校への関心が高く協力的である。  
 [地域]  
 ○「地域の学校」という意識を強く持った保護者・地域の方が多く、大変協力的である。  
 ○健全育成六郷支部を中心に、地域の方との交流が盛んである。

R 7年度学校評価結果

○「学校が楽しい」と答える児童 94%。  
 ○「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童 96%。  
 ○「授業に主体的に取り組んでいる」と答える児童 90.5%  
 ○「授業がよくわかる」と答える児童 90.1%。  
 ○「学校に信頼することのできる先生がいる」と答える児童 92.3%  
 ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」（5年生以上）と答える児童 82.8%  
 ○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と答える児童 87.7%  
 ○「学校は、保護者・地域と連携した教育活動をしている」と答える保護者 96.4%

2 めざす児童像(=教育課題)

- ◇ 自分事として捉えて行動できる（主体性）
- ◇ 自分の良さを自覚し思いを伝え合いながら、みんなでよりよいものをつくる（コミュニケーション力）

3 学校経営目標

子供と向き合い、寄り添うことを大切にし、未来を創る子供の「主体性」「コミュニケーション力」を育む

(1) 誰もが安心して生活できるあたたかな学校をつくる。(安心)

- ◇ 子どもの生命・安全・成長が第一=「子どもにとってどうか・力がついているか」
- ◇ いじめのない学級・学校、不登校0

- (2) 強みを生かした創造的で活力ある学校をつくる。(創造)
  - ◇ 資質・能力の育成(探究的な見方・考え方)
  - ◇ 保護者や家庭・地域との連携・協働した教育活動の推進
- (3) 児童や保護者・地域に信頼される職員になる。(人)
  - ◇ 授業力、学級経営力の向上
  - ◇ 高い倫理観・使命感の保持、誠実・公正な職務の遂行(「3 ゼロ+2」の徹底=交通事犯 0、体罰 0、セクハラ・わいせつ 0、情報の厳重管理、適正な会計及び事務手続)
- (4) 明るく、落ち着いた教育環境を整備する。(もの)
- (5) 計画的・効果的な予算の編成と執行を行う。(予算)
- (6) 広い視野とバランス感覚を持ち、必要な情報の収集・発信をする。(情報)

#### 4 学校教育目標 「高め合い 未来を拓く子」

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけることが重要である。学校教育目標「高め合い 未来を拓く子」は、目標に向かって夢中になって活動する中から、個々の成長と仲間との関わりから生まれる感動を目指し努力し続ける子である。

#### 5 重点目標 「自ら考えよう やってみよう」

「自ら考えよう」とは、目標に向かって自分の知識や経験を活かし、主体的に課題へ取り組み、最後までやり抜く姿を表す。これは、一人ひとりが自立した学び手として成長していく姿である。「やってみよう」とは、他者と関わりながら互いの考えや良さを認め合い、協力して挑戦する中で、コミュニケーション力を育み、高め合っていく姿を表す。これは、共に生きる力を育む姿である。

#### 6 具体的な取組

- (1) 積極的な生徒指導を推進し、あたたかな学級をつくる。
  - ア 人間(人権)尊重の教育を基盤にする。全校児童一人一人がかけがえのない存在として思いやる心を育てる。
  - イ 一人一人の子どもよさや成長に気づく目(心)を持ち、認め励まし、自己肯定感(自尊感情)を高める。また、子どもと教師、子ども同士のあたたかな人間関係(思いやり・協力)を築く。
  - ウ 個に配慮した的確な指導を全職員の共通理解と組織的な対応で進める。
  - エ 「報連相(報告、連絡、相談)・報(結果の報告)」を密にし、風通しのよい学級・学年経営に努める。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現し日々の授業を充実させ確かな力を育成する。
  - ア 研究主題「自分から学ぶ子」の達成に全力を注ぐ。各学年で押さえるべき指導内容、学びに積み重ねを意識した授業を行い児童の学力の向上をめざす。
  - イ 研修主任を中心とした組織的な校内研修を推進し、授業改善を進め、授業力を高める。
  - ウ 園小接続にむけて、スタートカリキュラムの充実を図る。
- (3) 目標達成に向け、接続を意識し見通しを持った教育活動を推進する。(園小中)

ア 生徒指導を要とし、全職員で共通理解・同一歩調、3部(「学びづくり部」「仲間づくり」「生活づくり部」)の組織的な取組と連携強化(バランスと調整)を図り、PDCAサイクルを機能させた、4ステージの教育活動を推進する。

イ 学びづくり部

『自分から学ぶ子』＝「六小 学びのステップ」を充実。(ステージごと見直す)

- 「聴く力・話す力・書く力・振り返る力」を育てる。
  - ・ 自分の言葉で伝え合う(話し方、きき方、書き方)。
  - ・ 低・中・高のステップアップ。
  - ・ 情報教育の確実な指導
- 「目標に向かって進んで取り組む、計画したことをやり抜く」力を育てる。
  - ・ 家庭学習の取り組ませ方。
  - ・ 自主学習を充実(ICT活用)する。
  - ・ 読書の充実。達成ページ・冊数を設定する。

ウ 仲間づくり部

- 「目標に向かって進んで取り組む、計画したことをやり抜く」力を育てる。
  - ・ 代表委員会、委員会活動、学級会を充実する。
- 「コミュニケーション」力を育て発揮する場とする。
  - ・ 一迎会、遠足、運動会、ふれあいフェスタ、六送会
  - ・ ペア活動

エ 生活づくり部

- よりよい生活をめざして考えよう (ルール)
- 生活指導を徹底する。
  - ・ 「心を整えよう」…くつ、トイレのスリッパ、姿勢
  - ・ 「心をきれいにしよう」…優しく正しい言葉づかい、清掃
  - ・ 「心をこめよう」…挨拶、学校のよさ、ありがとう
  - ・ 交通安全意識の醸成

(4) 保護者や家庭・地域との連携・協働を図る。

ア 地域を学び・地域を知り、六郷・菊川が大好きな子を育てる。

- 地域素材の教材化、地域人材の有効活用。

イ 教育活動(授業・行事等)に保護者や地域の教育力を活用する。

- 保護者参加の立哨指導、外部講師による体験活動、図書ボランティア

ウ 保護者や家庭との連携を図る。

- 魅力ある参観会・懇談会、学習ボランティア

エ 園小学校、小中学校間の連携、中学校区「学びの庭」構想を推進する。

- 園小連絡会、小中連絡会、菊東学舎合同研修会、学舎運営協議会

オ 生徒指導上の諸問題に教育相談を活用したり、SS・SSW・専門機関等と連携したりして、早期対応・継続指導・早期解決をする。

カ 子どもたちの安全・安心の確保を目指した危機管理体制を確立する。

- 安全な環境を目指す校内外の整備、様々な想定訓練(各種避難訓練・あぶトレ・防犯教室等)を重ね「自分の命は、自分で守る」意識の高揚

○ 登下校時の安全確立(スクールガード・地域見守りたい・PTA)

(5) 自分の力を発揮し、職員同士が支え合いながら学校づくりに参画する職員集団をめざす。

ア 役割(よさ)の明確化とキャリアステージに応じた職員育成(県教員等育成指標)を推進する(研修履歴活用、教職員人事評価制度の活用)。

イ 校内研修充実と日常化で授業力の向上を図る。(見届け・価値付け・ステップアップ)

ウ 危機管理意識(リスクマネジメント)を高く持ち、組織で対応する力を育成する。

エ 教育公務員としての高い意識を持つ(コンプライアンス、「3ゼロ+2」の徹底)。

(6) ユニバーサルデザインの視点で、誰もが安心して学べる教育環境をつくる。

ア 子どもにとって一番の教育環境は教職員自身であり、教職員は子どもにとって最良の言語環境であることを自覚する。

イ 季節感溢れ、豊かな感性を育む教育環境をつくる。…子どもの活動が見え、工夫された掲示。

(7) 予算委員会を通して計画的・効果的な予算の編成と執行を行う。また、補助教材効果検証委員会・補助教材選定委員会を通して適正な補助教材を購入する(補助教材取扱いガイドライン)。さらに、監査を通して説明責任を果たす。

(8) 本校のめざしていることを分かりやすく(具体的に)、継続的に伝える(発信)、また受信を密にする。

ア 学年・学校だより、学校ホームページ・きずなネットを使って発信する。

イ 学舎学校運営協議会で教育活動等についての意見を伺う。

ウ 健全育成市民会議六郷支部との連絡を密にし、常任委員会等へ参加する。

## 7 勤務環境改善

(1) 取組目標…教職員が主体となった業務改善の推進。

(2) 達成手段…「一人一改革」の視点を取り入れた業務の削減・効率化。

(3) 成果目標…各学年・分掌で1件以上の業務改善に関する取組実施。

## 8 教職員の心得

我々職員が、日々の勤務で大事にし、合い言葉として共通意識のもとに取り組むキーワードを以下にあげた。

- ・楽しさをつくるために、『笑顔』を意識した生活をつくる。
- ・子供の安心と居場所づくりのために『寄り添う』姿勢を大事にする。
- ・根拠を持ち、自信をもって『毅然とした指導』をする。
- ・落ち着いた生活づくりのために『環境整備』に心がける。
- ・気持ちと活動が停滞しないために『変化(新鮮な空気)』を加えていく。
- ・組織の活性化のために『縦(主任)と横(学年)』のつながりを強化する。
- ・信頼を裏切らない日常の『研鑽と節度』をもった生活をする。
- ・健康と視野の幅を広げるために、自らの『働き方』を意識した生活をする。